

新	旧
特記仕様書 令和8年7月1日 建設副産物の取扱い及び建設副産物実態調査に係る特記仕様書 本特記仕様書は、建設副産物の取扱い及び建設副産物実態調査に関する事項を定めるものであり、厚木市が発注する工事に適用する。 I. 総則 1 用語の定義 本特記仕様書において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。 (1) 建設副産物実態調査 建設工事に伴って発生するコンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生土などの副産物の発生量や再資源化(リサイクル)の実態を把握することを目的とした統計調査。 (2) コブリス・プラス 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（以下、「建設リサイクル法」という。）や各種法令に基づく「建設副産物」の搬出入計画、実施結果の報告をオンラインで一元管理できる Web システム。 (3) 建設工事 土木建築に関する工事をいう。 (4) 建設副産物 建設工事に伴い副次的に得られた物品をいう。 (5) 建設廃棄物 建設副産物のうち廃棄物の処理及び清掃に関する法律（以下「廃掃法」という。）の廃棄物に該当するものをいう。 (6) 建設資材 土木建築に関する工事に使用する資材をいう。 (7) 建設資材廃棄物 建設資材が廃掃法上の廃棄物となったものをいう。 (8) 建築物等 建築物その他の工作物をいう。 (9) 解体工事 建築物にあっては、当該建築物のうち構造耐力上主要な部分の全部又は一部を取り壊す工事をいい、建築物以外の工作物にあっては、当該工作物の全部又は一部を取り壊す工事をいう。 (10) 新築工事等 建築物等の新築その他の解体工事以外の建設工事をいう。 (11) 分別解体等 ア 解体工事の場合は、建築物等に用いられた建設資材に係る建設資材廃棄物をその種類ごとに分別しつつ当該工事を計画的に施工する行為をいう。 イ 新築工事等の場合は、当該工事に伴い副次的に生じる建設資材廃棄物をその種類ごとに分別しつつ当該工事を施工する行為をいう。 (12) 再資源化	特記仕様書 令和7年6月1日 建設副産物の取扱い及び建設副産物実態調査に係る特記仕様書 本特記仕様書は、建設副産物の取扱い及び建設副産物実態調査に関する事項を定めるものであり、厚木市が発注する工事に適用する。 I. 総則 1 用語の定義 本特記仕様書において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。 (新規追加) (新規追加) (1) 建設工事 土木建築に関する工事をいう。 (2) 建設副産物 建設工事に伴い副次的に得られた物品をいう。 (3) 建設廃棄物 建設副産物のうち廃棄物処理法上の廃棄物に該当するものをいう。 (4) 建設資材 土木建築に関する工事に使用する資材をいう。 (5) 建設資材廃棄物 建設資材が廃棄物処理法上の廃棄物となったものをいう。 (6) 建築物等 建築物その他の工作物をいう。 (7) 解体工事 建築物にあっては、当該建築物のうち構造耐力上主要な部分の全部又は一部を取り壊す工事をいい、建築物以外の工作物にあっては、当該工作物の全部又は一部を取り壊す工事をいう。 (8) 新築工事等 建築物等の新築その他の解体工事以外の建設工事をいう。 (9) 分別解体等 ア 解体工事の場合は、建築物等に用いられた建設資材に係る建設資材廃棄物をその種類ごとに分別しつつ当該工事を計画的に施工する行為をいう。 イ 新築工事等の場合は、当該工事に伴い副次的に生じる建設資材廃棄物をその種類ごとに分別しつつ当該工事を施工する行為をいう。 (10) 再資源化 分別解体等に伴って生じた建設資材廃棄物の運搬又は処分（再生するこ

新	旧
ア <u>分別解体等に伴って生じた建設資材廃棄物について</u>、資材又は原材料として利用することができる状態にすること。 イ <u>分別解体等に伴って生じた建設資材廃棄物であって</u>、燃焼の用に供することができるもの又はその可能性のあるものについて、熱を得ることに利用することができる状態にすること。 (13) 対象建設工事 <u>以下に該当する工事</u>をいう。 <u>・床面積の合計が 80 ㎡以上となる建築物の解体工事</u> <u>・床面積の合計が 500 ㎡以上となる建築物の新築・増築工事</u> <u>・請負代金の額が 1 億円以上となる建築物の修繕・模様替等工事（リフォーム等）</u> <u>・請負代金の額が 500 万円以上となる建築物以外の工作物の工事（土木工事等）</u> (14) <u>特定建設資材</u> <u>コンクリート、コンクリート及び鉄から成る建設資材、木材、アスファルト・コンクリートをいう。</u> (15) <u>特定建設資材廃棄物</u> <u>特定建設資材が廃棄物となったものをいう。</u> (16) 建設発生木材等 建設工事（工作物の新築、改築又は除去に係るものに限る。）に伴って副次的に得られた解体木くず、伐木材、伐根材その他の木材が廃棄物になったものをいう。 (17) 建設リサイクル資材 「県土整備局公共工事グリーン調達基準」の別表第 7 に定める認定対象品目の資材をいう。 (18) <u>再生資源利用計画(実施)書</u> <u>建設資材を工事現場に「搬入」して利用する場合に作成。工事着手前に「計画書」を、工事完了後に「実施書」を作成し、監督員へ提出。</u> (19) <u>再生資源利用促進計画(実施)書</u> <u>建設副産物を現場外へ「搬出」する場合に作成。工事着手前に「計画書」を、工事完了後に「実施書」を作成し、監督員へ提出。</u> Ⅱ. 建設副産物<u>の取扱い</u>に関する事項 <u>建設</u>工事の施工にあたっては、まず建設副産物の発生抑制に努め、発生したものについては再使用、再生利用を徹底し、そして熱回収が可能なものは熱回収を行うことを基本として取り組むこととし、このための施工方法及び建設資材の選択等については積極的に提案すること。 1 施工前に取り組む事項 建設副産物の発生抑制、分別解体等、再資源化等の中心的役割を担う者として、建設業法、建設リサイクル法その他の法令を遵守するとともに、<u>監督員</u>との連絡調整、管理及び施工体制の整備等を行うこと。	<u>とを含む）に該当するもので次に掲げる行為をいう。</u> ア 資材又は原材料として利用することができる状態にすること。 イ 燃焼の用に供することができるもの又はその可能性のあるものについて、熱を得ることに利用することができる状態にすること。 (11) 対象建設工事 <u>建設リサイクル法に規定する対象建設工事</u>をいう。 <u>（新規追加）</u> <u>（新規追加）</u> (12) 建設発生木材等 建設工事（工作物の新築、改築又は除去に係るものに限る。）に伴って副次的に得られた解体木くず、伐木材、伐根材その他の木材が廃棄物になったものをいう。 (13) 建設リサイクル資材 「県土整備局公共工事グリーン調達基準」の別表第 7 に定める認定対象品目の資材をいう。 (14) <u>再生資源利用促進計画(実施)書</u> <u>資源有効利用促進法に規定する再生資源利用促進計画（実施状況）をいう。</u> (15) <u>再生資源利用計画(実施)書</u> <u>資源有効利用促進法に規定する再生資源利用計画（実施状況）をいう。</u> Ⅱ. 建設副産物<u>適正処理・再資源化</u>に関する事項 工事の施工<u>等</u>にあたっては、まず建設副産物の発生抑制に努め、発生したものについては再使用、再生利用を徹底し、そして熱回収が可能なものは熱回収を行うことを基本として取り組むこととし、このための施工方法及び建設資材の選択等については積極的に提案すること。 1 施工前に取り組む事項 建設副産物の発生抑制、分別解体等、再資源化等の中心的役割を担う者として、建設業法、建設リサイクル法その他の法令を遵守するとともに、<u>発注者</u>との連絡調整、管理及び施工体制の整備等を行うこと。

新	旧
《管理及び施工体制の整備》 (1) 工事現場における建設副産物対策の責任者を明確に<u>する</u>こと。 (2) 請負代金の額が100万円以上（税込）の場合には、次の事項を行うこと。 ア 次項Ⅲ. に基づき<u>コブリス・プラス</u>に工事情報を登録すること。 イ <u>コブリス・プラス</u>から出力する等をして、「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用<u>促進</u>計画書」を作成し、施工計画書に添付するとともに、監督員に提出して説明すること。 <u>(削除)</u> <u>ウ</u> 再生資源利用計画書及び再生資源利用<u>促進</u>計画書は、公衆の見えやすい場所に掲示（デジタルサイネージによる掲示も可）すること。 (3) 建設発生土を工事現場から搬出する建設工事を施工する場合には、<u>資源の有効な利用の促進に関する法律(以下、「資源有効利用促進法」という。)</u>に規定する「確認結果票」を作成し、上記イ及び<u>ウ</u>と同様に行うこと。 (4) (略) (5) <u>「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用促進計画書」</u>の内容については、現場担当者の教育、協力業者に対する周知徹底と明確な指導を行うこと。 (6)～(12) (略) 《再生品の利用》 (13) 建設資材廃棄物の再資源化により得られた建設資材については、利用用途に応じた品質等を考慮した上で、次の事例を参考とし、可能な限り利用すること。 ア 道路等の舗装の路盤材、建築物の砂利・砂・割り石等の材料は、原則として、「コンクリート塊等の処理及び建設リサイクル資材に関する事務取扱要領」に基づく県土整備局のコンクリート塊等処理指定工場から再生砕石等を調達すること。ただし、再生砂（RC-10）の利用に当たっては、製造者側から試験結果報告書入手し六価クロムに係る環境基準の適合確認をした上で、監督員に報告書を提出し、確認を受けることとする。 なお、<u>受注した</u>工事において再生砕石等を使用する場合は、再生資源利用計画書を<u>添付</u>した施工計画書に当該指定工場の材料試験成績書を添えて、監督員に提出すること。 イ 建築工事の内装材等及び道路舗装材には、「工事における環境<u>に配慮した</u>公共工事の推進に関する特記仕様書」を参考に、パーティクルボードや再生加熱アスファルト混合物等の利用	《管理及び施工体制の整備》 (1) 工事現場における建設副産物対策の責任者を明確に<u>し、廃棄物処理計画の作成に努める</u>こと。 (2) 請負代金の額が100万円以上（税込）の場合には、次の事項を行うこと。 ア 次項Ⅲ. に基づき<u>建設副産物情報交換システム</u>に工事情報を登録すること。 イ <u>建設副産物情報交換システム</u>から出力する等をして、「再生資源利用<u>促進</u>計画書」及び「再生資源利用計画書」を作成し、施工計画書に添付するとともに、監督員に提出して説明すること。 <u>ウ</u> <u>上記イで作成した内容に変更が生じたときは、速やかに再生資源利用促進計画書及び再生資源利用計画書を変更し、その変更内容を監督員に速やかに報告する。</u> <u>エ</u> 再生資源利用<u>促進</u>計画書及び再生資源利用計画書は、公衆の見えやすい場所に掲示（デジタルサイネージによる掲示も可）すること。 (3) <u>体積が 500m3 以上ある</u>建設発生土を工事現場から搬出する建設工事を施工する場合には、資源有効利用促進法に規定する「確認結果票」を作成し、上記イ、<u>ウ</u>及び<u>エ</u>と同様に行うこと。 (4) (略) (5) 再生資源利用促進計画書、再生資源利用計画書及び廃棄物処理計画等の内容については、現場担当者の教育、協力業者に対する周知徹底と明確な指導を行うこと。 (6)～(12) (略) 《再生品の利用》 (13) 建設資材廃棄物の再資源化により得られた建設資材については、利用用途に応じた品質等を考慮した上で、次の事例を参考とし、可能な限り利用すること。 ア 道路等の舗装の路盤材、建築物の砂利・砂・割り石等の材料は、原則として、「コンクリート塊等の処理及び建設リサイクル資材に関する事務取扱要領」に基づく県土整備局のコンクリート塊等処理指定工場から再生砕石等を調達すること。ただし、再生砂（RC-10）の利用に当たっては、製造者側から試験結果報告書入手し六価クロムに係る環境基準の適合確認をした上で、監督員に報告書を提出し、確認を受けることとする。 なお、<u>請け負った</u>工事において再生砕石等を使用する場合は、<u>上記要領に基づき、購入先その他の建設リサイクル資材の利用に関する内容（再生資源利用計画書）を記載</u>した施工計画書に当該指定工場の材料試験成績書を添えて、監督員に提出すること。 <u>また、工事が完了したときは、上記要領に基づき、当該工事に使用した再生砕石等の使用数量を建設リサイクル資材利用報告書に再生骨材購入指定工場の納入証明を受け、監督員に提出すること。</u> イ 建築工事の内装材等及び道路舗装材には、「工事における環境配慮<u>型</u>公共工事の推進に関する特記仕様書」を参考に、パーティクルボードや再生加熱アスファルト混合物等の利

新	旧
に努めること。 ウ （略） 2 施工に関する事項 分別解体等及び建設資材廃棄物の処理等の過程においては、<u>廃掃法</u>、大気汚染防止法、労働安全衛生法、神奈川県生活環境の保全等に関する条例等関係法令の遵守を徹底するとともに、アスベスト、C C A処理木材、フロン類、非飛散性アスベスト、P C B等の取扱いには十分注意し、有害物質等の発生抑制及び周辺環境への影響の防止を図ること。 (1) (略) (2) 建設業者にあつては主任技術者（監理技術者）、解体工事業登録業者にあつては技術管理者を設置するとともに、工事の現場に<u>建設業の許可票又は、解体工事業者登録票</u>を掲げること。 (3)～(5) (略) (6) コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊は、原則として県土整備局のコンクリート塊等処理指定工場へ搬出すること。 その際には、<u>当該指定工場に搬出することを明記した</u>再生資源利用促進計画書を<u>添付</u>した施工計画書を監督員に提出するなど、所定の手続きを取ること。 (7) 建設発生木材等は、原則として県土整備局の指定事業者の指定施設へ搬出すること。 その際には、<u>当該指定事業者に搬出することを明記した</u>再生資源利用促進計画書を<u>添付</u>した施工計画書を監督員に提出するなど、所定の手続きを取ること。 (8) 土砂を搬入した場合には、速やかに資源有効利用促進法に規定する「受領書」を搬入元の<u>受注者</u>等に交付すること。 (9) (略) 《適正処理》 (10) 廃棄物を処理する場合には、<u>受注者</u>は、排出事業者として自らの責任において、<u>廃掃法</u>等関係法令に基づき、可能な限り現場で減量化した後に適正に処理すること。 (11) (略) 3 施工の完了後に行う事項 (1) <u>「再生資源利用計画書」</u>及び<u>「再生資源利用促進計画書」</u>を作成した工事にあつては、産業廃棄物管理票（マニフェスト）と照合した上で実施状況を記録し、<u>コブリス・プラス</u>から出力する等をして、「再生資源利用実施書」及び「再生資源利用<u>促進</u>実施書」を作成し、監督員に提出するとともに、その内容を報告すること。 (2) <u>「再生資源利用促進計画（実施）書」</u>、<u>「再生資源利用促進計画（実施）書」</u>及び確認結果票は、<u>工事完成日から</u> 5年間保存すること。	用に努めること。 ウ （略） 2 施工に関する事項 分別解体等及び建設資材廃棄物の処理等の過程においては、<u>廃棄物処理法</u>、大気汚染防止法、労働安全衛生法、神奈川県生活環境の保全等に関する条例等関係法令の遵守を徹底するとともに、アスベスト、C C A処理木材、フロン類、非飛散性アスベスト、P C B等の取扱いには十分注意し、有害物質等の発生抑制及び周辺環境への影響の防止を図ること。 (1) (略) (2) 建設業者にあつては主任技術者（監理技術者）、解体工事業登録業者にあつては技術管理者を設置するとともに、工事の現場に<u>標識</u>を掲げること。 (3)～(5) (略) (6) コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊は、原則として県土整備局のコンクリート塊等処理指定工場へ搬出すること。 その際には、<u>「コンクリート塊等の処理及び建設リサイクル資材に関する事務取扱要領」に基づき、搬出先その他のコンクリート塊等の再資源化に関する内容（再生資源利用促進計画書）を記載</u>した施工計画書を監督員に提出するなど、所定の手続きを取ること。 (7) 建設発生木材等は、原則として県土整備局の指定事業者の指定施設へ搬出すること。 その際には、<u>「建設発生木材等の再資源化に関する事務取扱要領」に基づき、搬出先その他の建設発生木材等の再資源化に関する内容（再生資源利用促進計画書）を記載</u>した施工計画書を監督員に提出するなど、所定の手続きを取ること。 (8) <u>体積が 500m3 以上ある</u>土砂を搬入した場合には、速やかに資源有効利用促進法に規定する「受領書」を搬入元の<u>元請業者</u>等に交付すること。 (9) (略) 《適正処理》 (10) 廃棄物を処理する場合には、<u>元請業者</u>は、排出事業者として自らの責任において、<u>廃棄物処理法</u>等関係法令に基づき、可能な限り現場で減量化した後に適正に処理すること。 (11) (略) 3 施工の完了後に行う事項 (1) 再生資源利用<u>促進</u>計画書及び再生資源利用計画書を作成した工事にあつては、産業廃棄物管理票（マニフェスト）と照合した上で実施状況を記録し、<u>建設副産物情報交換システム</u>から出力する等をして、「再生資源利用<u>促進</u>実施書」及び「再生資源利用実施書」を作成し、監督員に提出するとともに、その内容を報告すること。 (2) 再生資源利用促進計画（実施）書、再生資源利用計画（実施）書及び確認結果票は、5年間保存すること。

新	旧
(3) 対象建設工事においては、産業廃棄物管理票（マニフェスト）と照合して、特定建設資材廃棄物の再資源化が完了したことを確認したときは、速やかに「再資源化等報告書」を<u>監督員</u>に提出するとともに、再資源化等の実施状況に関する記録を作成し、保存すること。 <u>なお</u>、次項Ⅲ.に基づき<u>コブリス・プラス</u>に工事情報を登録した場合は、上記の建設リサイクル法に基づく再資源化等報告書は監督員に提出されたものとみなす。 (4) <u>建設工事で発生した</u>コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊については、「コンクリート塊等の処理及び建設リサイクル資材に関する事務取扱要領」に基づき、コンクリート塊等<u>処理</u>指定工場への搬出を完了<u>後</u>、速やかにコンクリート塊等搬入完了報告書に指定工場の証明を受けて監督員に報告すること。 (5) <u>建設工事で発生した</u>建設発生木材等については、「建設発生木材等の再資源化に関する事務取扱要領」に基づき、建設発生木材等の指定施設への搬出を完了<u>後</u>、速やかに建設発生木材等搬入完了報告書に指定施設の証明を受けて監督員に報告すること。 上記(1)から(5)の書類は、完成検査時の確認事項とするので、契約工期限内に提出等すること。 <u>(削除)</u> Ⅲ. 建設副産物実態調査に関する事項 <u>再生資源利用量及び建設副産物についての発生量</u>の実態把握について定める。 1 <u>受注者</u>は、建設資材利用量の大小や有無及び建設副産物発生量・搬出量の大小や有無にかかわらず、当該年度に終了した最終<u>契約</u>額が100万円以上（税込）の工事は、次項の建設副産物実態調査作業手順に<u>基づき登録</u>する。ただし、複数年度にまたがる債務工事等の工事額は、当該年度の年	(3) 対象建設工事においては、産業廃棄物管理票（マニフェスト）と照合して、特定建設資材廃棄物の再資源化が完了したことを確認したときは、速やかに「再資源化等報告書」を<u>発注者</u>に提出するとともに、再資源化等の実施状況に関する記録を作成し、保存すること。 (4) 次項Ⅲ.に基づき<u>建設副産物情報交換システム</u>に工事情報を登録した場合は、上記(3)の建設リサイクル法に基づく再資源化等報告書は監督員に提出されたものとみなす。 (5) コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊については、「コンクリート塊等の処理及び建設リサイクル資材に関する事務取扱要領」に基づき、<u>当該工事で発生した</u>コンクリート塊等の<u>指定</u>工場への搬出を完了<u>したときは</u>、速やかにコンクリート塊等搬入完了報告書に指定工場の証明を受けて監督員に報告すること。 (6) 建設発生木材等については、「建設発生木材等の再資源化に関する事務取扱要領」に基づき、<u>当該工事で発生した</u>建設発生木材等の指定施設への搬出を完了<u>したときは</u>、速やかに建設発生木材等搬入完了報告書に指定施設の証明を受けて監督員に報告すること。 上記(1)から(6)の書類は、完成検査時の確認事項とするので、契約工期限内に提出等すること。 <u>(参考)</u> ○ <u>建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（平成12年法律第104号）（令和7年6月1日改正）（建設リサイクル法）</u> ○ <u>特定建設資材に係る分別解体等及び特定建設資材廃棄物の再資源化等の促進等に関する基本方針（平成13年1月17日 農林水産省・経済産業省・国土交通省・環境省告示第1号）</u> ○ <u>神奈川県における特定建設資材に係る分別解体等及び特定建設資材廃棄物の再資源化等の促進等の実施に関する指針（平成14年5月28日 神奈川県告示第366号）</u> ○ <u>資源の有効な利用の促進に関する法律（平成3年法律第48号）（令和5年4月1日改正）（ラージリサイクル法）</u> ○ <u>廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和45年法律第137号）（令和7年6月1日改正）（廃棄物処理法）</u> ○ <u>国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成12年法律第100号）（令和3年9月1日改正）（グリーン購入法）</u> ○ <u>建設副産物適正処理推進要綱（平成14年5月30日改正）</u> Ⅲ. 建設副産物実態調査に関する事項 <u>現場から発生する建設副産物についての発生量および再生資源利用量</u>の実態把握について定める。 1 <u>元請業者</u>は、建設資材利用量の大小や有無及び建設副産物発生量・搬出量の大小や有無にかかわらず、当該年度に終了した最終<u>請負</u>額が100万円以上（税込）の工事<u>（小規模工事等は除く）</u>は、次項の建設副産物実態調査作業手順に<u>もとづき調査データを提出するもの</u>とする。ただし、

新	旧
割り額を<u>入力</u>し、工事内容は当該年度分の資材利用量、建設副産物発生量・搬出量のみを<u>入力</u>する。 <u>なお、表 1 に示す建設資材の搬入又は建設副産物の搬出が全くない場合は、県による調査の対象外となるためコブリス・プラスへの登録は不要となるが、約 5 年に一度の国による調査（センサス）が実施される場合は、例外なく最終契約額が 100 万円以上の工事を登録する。</u> 本調査の対象品目は、表 1 の<u>とおり</u>である。 表 1（略） 2 建設副産物実態調査のコブリス・プラスの作業手順は、次のとおりとし、<u>受注者</u>が行うものとする。 (1) 一般財団法人日本建設情報総合センターのホームページ https://fkplus.jacic.or.jp/ からコブリス・プラスにログインする。 システムの操作方法については、「トップページ」内の「コブリス・プラスでできること（動画）」、「コブリス・プラスの使い方」ページ内の「民間企業の方へ」「■工事の受注者の方へ」（1）及び、「■受注者向け（動画）」を参照する。 (2) (3)（略） (4) 工事完成時に「<u>再生資源利用実施書、再生資源利用促進実施書</u>」（最終データに修正）<u>を作成する</u>。データチェック結果にて「確認が必要な事項」がある場合は、修正の要否を確認し、修正が完了したデータをコブリス・プラス上で監督員へ提出する。（監督員からコブリス・プラスで修正指示がある場合（提出状況欄が「問い合わせあり」の場合）は修正登録をする。） (5) 「再生資源利用<u>実施書</u>、再生資源利用促進<u>実施書</u>のダウンロード」から、当該様式（実施）を印刷し、監督員に提出する。 (6)（略） 3 データ入力上の留意点 (1)（略） (2) チェック結果及び「データ登録済み確認書」のチェック結果で確認が必要な事項に下記の項目がある場合は修正する。 <u>9. レンジオーバー</u> （発生箇所：工事概要） 請負金額の単位が「万円」であることを再確認し、桁間違いをしていないか確認のうえ、修正登録。 <u>19. 不整合</u> （発生箇所：様式 1 土砂、様式 2 建設発生土） 「様式 1 の土砂（現場内利用量）」と「様式 2 の建設発生土（現場内利用量）」<u>の両方に設計</u>	複数年度にまたがる債務工事等の工事額は、当該年度の年割り額を<u>記入</u>し、工事内容は当該年度分の資材利用量、建設副産物発生量・搬出量のみを<u>記入</u>する。 本調査の対象品目は、表 1 の<u>通り</u>である。 表 1（略） 2 建設副産物実態調査のコブリス・プラスの作業手順は、次のとおりとし、<u>元請業者</u>が行うものとする。 (1) 一般財団法人日本建設情報総合センターのホームページ https://fkplus.jacic.or.jp/ から<u>建設副産物情報交換システム（コブリス・プラス）</u>にログインする。 システムの操作方法については、「トップページ」内の「コブリス・プラスでできること（動画）」、「コブリス・プラスの使い方」ページ内の「民間企業の方へ」「■工事の受注者の方へ」（1）及び、「■受注者向け（動画）」を参照する。 (2) (3)（略） (4) 工事完成時に<u>実施書</u>（最終データに修正）<u>に書き換える</u>。データチェック結果にて「確認が必要な事項」がある場合は、修正の要否を確認し、修正が完了したデータをコブリス・プラス上で監督員へ提出する。（監督員からコブリス・プラスで修正指示がある場合（提出状況欄が「問い合わせあり」の場合）は修正登録をする。） (5) 「再生資源利用<u>計画書</u>、再生資源利用促進<u>計画書</u>のダウンロード」から、当該様式（実施）を印刷し、監督員に提出する。 (6)（略） 3 データ入力上の留意点 (1)（略） (2) チェック結果及び「データ登録済み確認書」のチェック結果で確認が必要な事項に下記の項目がある場合は修正する。 <u>11. レンジオーバー</u> （発生箇所：工事概要） 請負金額の単位が「万円」であることを再確認し、桁間違いをしていないか確認のうえ、修正登録。 <u>20. 現場内不整合</u> （発生箇所：様式 1 土砂、様式 2 建設発生土） 「様式 1 の土砂（現場内利用量）」<u>＝</u>「様式 2 の建設発生土（現場内利用量）」<u>となるよう</u>

新	旧
<u>書に対応した数値を</u>修正登録。 (発生箇所：様式1 砕石、様式2 コンクリート、アスファルト・コンクリート) 「様式1 の砕石 (現場内利用量)」＝「様式2 のコンクリート、アスファルト・コンクリート (現場内利用量)」となるように単位換算をした数値で修正登録。 <u>25.</u> リサイクル率対象外 (発生箇所：様式2 コンクリート、様式2 アスファルト・コンクリート) 原則として、搬出先は県土整備局のコンクリート塊等処理指定工場（再資源化工場）となるため修正登録。 (発生箇所：様式2 建設発生木材 A、B) 原則として、搬出先は県土整備局の指定事業者の指定施設（再資源化施設）となるため修正登録。 (発生箇所：様式2 建設発生土（第一種～第四種、浚渫土）) 原則として、搬出先は県指定受入地となるため修正登録。	<u>に</u>修正登録。 (発生箇所：様式1 砕石、様式2 コンクリート、アスファルト・コンクリート) 「様式1 の砕石 (現場内利用量)」＝「様式2 のコンクリート、アスファルト・コンクリート (現場内利用量)」となるように単位換算をした数値で修正登録。 <u>24.</u> リサイクル率対象外 (発生箇所：様式2 コンクリート、様式2 アスファルト・コンクリート) 原則として、搬出先は県土整備局のコンクリート塊等処理指定工場（再資源化工場）となるため修正登録。 (発生箇所：様式2 建設発生木材 A、B) 原則として、搬出先は県土整備局の指定事業者の指定施設（再資源化施設）となるため修正登録。 (発生箇所：様式2 建設発生土（第一種～第四種、浚渫土）) 原則として、搬出先は県指定受入地となるため修正登録。